

令和6年度 練馬区立大泉西小学校・学校経営計画

【学校教育目標】 —子どもの夢を大切に、夢の実現の後押しをする—

上記のミッションを実現するため、具体的に以下の子ども像を掲げ、全教育課程を通じて、その着実な実現を図る。

・「なりたい自分」を語る子ども ・自らに価値を感じる子ども ・「なれる自分」を広げていく子ども ・自分以外の人に思いをめぐらす子ども

経営目標	目標達成のための具体的方策	取り組み指針	成果指標
(1)子どもに夢と 気概を育む	①子どもの世界を広げるための読書活動を充実させる。	・図書室管理員と学級担任が合理的な連携を図り、全学級で週1回程度の図書室の利用を図る。	・年度末の児童アンケートで「読書が好き」と回答する児童の割合を80%以上に にする。
	②学習を好きにさせる教科指導を展開する。	・「教えて褒める」という基本原則に基づいて児童を指導することで、学習への 意欲を喚起させる。	・各学期末アンケートで「できたこと・わかったことを先生から褒められて嬉し かった」と回答する児童を90%以上にする。
	③子どもに自らの夢や希望を語らせる場を継続的に設ける。	・担任と副担任は年間4回以上、教科指導や特別活動の時間などに子ども 一人一人に対して、将来の夢を問い掛ける。	・年度末の児童アンケートで「自分には将来の夢、就きたい職業がある」と回答 する児童の割合の80%以上にする。
(2)自尊心を高め る	④外部団体による様々な企画・行事への児童の参加や作品 応募等を積極的に促すことで一人一人の長所を認め、伸ば す。	・各種コンクールに各学級在籍児童の70%以上を応募させる。	・年度末の児童アンケートで「自分には良いところがある」と回答する児童を 80%以上にする。
	⑤各学年の発達段階に応じて、暗唱・素読・百人一首・伝承 遊び等の活動を取り入れる。	・担任の他、管理職も率先して暗唱に取り組む子どもと関わり、年間を通し、全 校的な活動として推進する。	・年度末までに名詩・名文を一人3作品以上、学級平均8作品以上、暗唱でき るようにする。
(3)集中力と持続 力を醸成する	⑥児童一人一人の体力の向上を図る。	・卒業までに児童全員が水泳25m完泳、逆上がり、開脚跳び、二重跳び連続5 回ができるように、各々細かなステップと学年ごとの達成目標を設定する。 ・各学級で「1学級1取組」における具体的な数値目標の設定と、学期1回以上 の継続的なモニタリングを行ない、一人一人の児童の着実な体力向上を図る。	・年度末に水泳25m完泳、逆上がり、開脚跳び、二重跳び連続5回ができるよう に、学年ごとの目標を達成する。 ・各学級の「1学級1取組」の重点項目の伸び率を「練馬区の伸び率×1.2」以 上向上させる。
	⑦安心・安全かつ快適な学校環境を保障する。	・練馬区版「いじめ発見のチェックシート」と「大泉西小いじめ発見・対応マニ ュアル」による児童の定期的観察を着実に実施する。 ・放課後5分程度を使って、全教員がその日の児童一人一人に関する事実を 記録簿に記入する。 ・各ブロックでの相互授業観察と月2回以上の打ち合わせ会等を実施する。 ・管理職による1日1回以上の施設の目視点検、及び全教職員による学期1回 以上の施設点検を実施する。	・ふれあいアンケートや日常的なきめ細かい児童観察で、いじめ及びそれに類 する言動を早期に発見し、その解決率を100%にする。 ・年度末の児童アンケートで「担任には相談しやすい」と回答する児童の割合 を85%以上、「副担任には相談しやすい」と回答する児童の割合を70%以上 にする。 ・年度末の保護者アンケートで「安全に十分配慮している」という設問への肯定 的評価を90%以上にする。 ・サービス事故の発生件数を0件とする。
(4)基礎学力を保 障する	⑧大泉西中学校区の「目指す15歳の姿」の実現に向け、全 ての児童に学力向上を保証する。	・朝の時間帯を活用してドリル的な学習に取り組ませる。この時間は副担任も 可能な限り担当学年の教室で指導に従事する。 ・習熟度に応じた弾力的な大泉西小版・算数指導計画を作成し、一人一人の 数的能力の向上を図る。 ・全教員が毎月1回程度の擬授業研修を受講し、「授業の名人」からユニバー サルデザインに基づいた指導スキルを身に付ける。 ・全教員がタブレット端末を活用した授業を一週間に1回以上は行うと共に、 児童が「新たな文房具」として日常的に活用できるようにする。	・次年度の標準学力調査「算数」の一人一人の正答率を今年度比で5%向上 させると共に、一人一人の算数ワークテストの「知識・技能」の3学期平均正 答率を1学期比で10%向上させる。 ・年度末の児童アンケートで「算数が楽しい」と回答する児童を90%以上に する。
(5)他者意識を育 む	⑨集団の中で互いに心地よく過ごすことができるよう、あいさつなどの マナーや各種ルールの遵守を図り、相手を尊重する意識・態度の育成 を図る。	・全教員が児童にあいさつ等のマナーや校内外のルールを遵守させるための 取り組みを策定し、それを自己申告書に記載する。	・年度末の保護者アンケートで「あいさつ」「ルール」に関する設問への肯定的 回答を各々90%以上にする。
	⑩縦割り班活動での活動を重視し、年長者が年少者を導く活 動をより充実させる。	・縦割り班の活動を月1回以上実施する。コロナ禍で困難な場合は手紙交換な どの機会を意図的に設定する。	・年度末の児童アンケートで、「同じ縦割り班のメンバーに対して親しみがある」 と回答する児童の割合を80%以上にする。